

「まち物語制作委員会」が主催された、
第2回絵おと芝居「ヒロシマを復興させた5つの力」を見学しました。



8月6日（日）に、「ヒロシマを復興させた5つの力」をテーマに、西区民文化センターにおいて「第2回絵おと芝居」が開催されました。

「絵おと芝居」とは、主催者が提唱している新時代の紙芝居公演で、紙芝居の絵を投影し、役柄に応じて読み手を配置し、プロの演奏家が生演奏で参加するというものです。

今回は5つの物語が演じられ、そのうち「ヒロシマサッカー復活物語」と「ヒロシマ緑の輪物語」は、それぞれ広島修道中・高等学校の放送部の皆さんと広島市立中広中学校の演劇・放送部の皆さんによるステージでした。



復興の力②「ひろしまサッカー復活物語」は、被爆後、復活に向け同校のOBが奮闘した物語を75年後の後輩が演じました。また、復興の力④「ヒロシマ緑の輪物語」は、75年は草木も生えぬと言われた広島市に緑を取り戻すために行われた供木運動の物語を、中広中学校のOBであり主催者で紙芝居作家のいくまさ鉄平さんが話と絵を作成、後輩の学生が演じ、音楽は同校の2名の先生方がプロの音楽家の方々とともに演奏されるという、縁でつながれたステージでした。出演を終えた学生の皆さんは、達成感を感じておられる様子で、自信に満ち溢れた素敵な笑顔が印象的でした。

その他、「広島カープ誕生物語」や「お好み焼き物語」「ヒロシマ7DAYS」など、市民団体の方によるステージもあり、この「絵おと芝居」は、今後も各種テーマを取り上げいろいろな場面で、観客の私たちにとっても演者の皆さんにとっても元気と勇気を与えることができるものと、今後の可能性を大いに感じながら会場を後にしました。 （本郷）